

スゲクビボソハムシ神戸市内で採集 (兵庫県甲虫相資料・178)

高橋 寿郎

スゲクビボソハムシ *Lema dilecta* Baly は Baly, J. S. により "Hiogo, Japan; a single specimen" として新種記載された種である (Trans, ent. Soc. Part. I, p.74, 1873)。

Gemminger & Harold による Col, Cat., VII, p.3253, 1874 には Japonia とのみ記録されている。Jacoby, M. は 1885 年 "Ogura Lake, and Kyoto" を記録された (Proc. Zool. Soc. Lond., p.194, 1885)。また桑山 登博士は "Nakano, Prov. Musashi, Maruyama, Prov. Ishikari" を産地に加えられ本種の分布を北海道, 本州とされた (Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. Vol.33, pt.1, p.70-71, 1932)。

日本産 *Lema* 属中の最小種の 1 つで (体長 3.8~4.2 mm)。頭部は赤褐色の前頭中央部を除き青藍色。上翅も青藍色の美しいハムシであるが何にせ小さいことで一般に注意されていないようで現在の分布は北海道, 本州, 九州と日本特産種で少い種の 1 つであるとされている。

兵庫県からの記録は原記載の 1 標本以後 1955 年後藤光男氏が宝塚産 (IV.1951) を原色で図説された (原色日本昆虫図鑑 甲虫篇, 増補改定版, pl.21, f.443, p.70. 和名はチビルリクビボソハムシとなっている)。その後木元新作博士が 1964 年の論文 "The Chrysomelidae of Japan and the Ryuhyu Islands, II" の中で図説されると共に (Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ., Vol.13, No.1, p.126, fig.16) "Hyogo: Takarazuka (2exs., 22, Apr.1953, Z. Nomura leg.)" なる記録を発表しておられる (御本人にお尋ねしたわけではないがこの採集者は野村 全氏だと思ふ)。

県下での記録は僅に以上の例を知るだけで全くもって珍しい種の 1 つであると考えていた。1986 年 6 月 1 日神戸市北区山田町金剛童子山殿の手池北側の湿地にネクイハムシの調査に出掛け網でヨシをすくって 1ex. 採集出来たので久方振りの記録として此処に報告しておく (体長 4 mm)。尚この標本の肢は腿節ほとんど黒味を帯びていて脛節並びに各附節の生端も黒っぽい (その他は赤褐色)。

本種の原色の図説は中根猛彦博士 (原色昆虫大図鑑 II, 1963), 木元新作博士 (原色日本甲虫図鑑 IV, 1984) のものがある。

(AUG. 1986)

(付記) 1986 年 9 月 13 日大倉正文氏古稀祝賀会が大阪中津の東洋ホテルで開催された。発起人の一人として参加させて頂いたが同じく発起人として野村 全氏もお見えになりお会い出来たのでこのハムシのことをお聞きしたのであるがどうも記憶に無いとのことであったので、木元博士の記録された 2exs. は野村 全氏採集のものではないようである。